

方剂名		効能	生薬組成
書籍		主治および証	病機 方意
補益剤 補血剤 1			
しもつとう 四物湯	補血調血		当帰 9g・川芎 6g・白芍 12g・熟地黄 12g 水煎し服用する。
	和剤局方	<主治> 肝血虚、血滯 目がかすむ、目の異物感、めまい、頭のふらつき、頭がぼーっとする、耳鳴、顔色が悪くつやがない、口唇が あれる、毛髪につやがない、爪がもろくつやがない、ときに腹痛、月経が遅れる、経血量が少ない、無月経、 舌質が淡、脈が弦細あるいは細洪などを呈す。 <病機> 出血などにより肝血が不足し、営血虚滯を引き起こした状態である。 血虚のために肝竅である目や頭面部を上栄できないので、目がかすむ、目の異物感、めまい、頭のふらつき、 頭がぼーっとする、耳鳴り、顔色が悪くつやがない、口唇があれなどの症候が現われ、肢末の爪や血の余で ある毛髪も栄養されずつやがなくもろくなる。肝血不足で衝任が空虚になると、月経量の減少、月経周期の延 長、無月経がみられる。営血不足のため血脈が虚滯し易く、ときに腹痛が生じたり脈が細洪を呈する。営血不 足であるから舌質は淡、脈は細であり、肝血不足で肝気の疏泄が失調すると脈が弦候を帯び、陽熱の布散も失 調して悪寒、熱感が交互に生じることが多い。 <方意> 肝血虚、営血虚滯であるから、補血養肝、調血行滯すべきである。 主薬は甘温の熟地黄で滋陰養血、填精し、酸、微寒の白芍は斂陰補血、柔肝に働き、辛、甘、温の当帰は補 血活血、調経し、辛温の川芎は血中の気を理し活血行滯する。全方が血分薬からなり、補血して滯らせず、行 血して破血せず、補中に行散があり、行散の中に収斂があり、補血、調血、行滯する「治血の要剤」になっ ている。 <参考> 本方（四物湯）は、芎帰膠艾湯<金匱要略>から阿膠・艾葉・甘草を除いたものであり、補血剤の基本方 になっている。 加減法 気虚を伴えば、人参・黄耆を加える。 瘀血を伴えば、桃仁・紅花を加える。 血虚有熱には、肉桂・炮姜を加える。 崩漏には、阿膠・艾葉を加える。 血虚兼熱には、牡丹皮・黄芩を加える。 脾虚の泥状～水様便には、熟地黄・当帰を減量し、白朮・茯苓などを加える。 日本での保険適応効能、効果 皮膚が乾燥し、色つやの悪い体質で胃腸障害のない人の次の諸症；産後あるいは流産後の疲労回復、月経 不順、冷え症、しもやけ、しみ、血の道症	
せいゆとう 聖癒湯	益気補気・摂血		熟地黄 12g・白芍 12g・当帰 9g・川芎 6g・黄耆 18g・人参 6g 水煎し服用する。 「四物湯 + (黄耆・人参)」に相当する。
	医宗金鑑	主治は、気血両虚による月経周期短縮、多量の淡い経血、四肢無力、倦怠感、元気がないなどの症候。 気血不足で気不摂血の崩漏が生じた状態であり、四物湯（当帰・川芎・白芍・熟地黄）で補血調血し、益気 の黄耆・人参で摂血している。	
れんじゅいん 連珠飲 (四物湯合苓桂朮甘湯)			四物湯 + 苓桂朮甘湯
	内科秘録	血の道、その他で血虚眩暈、心下逆満、あるいは発熱、自汗のものに用いる。	
ももこうしもつとう 桃紅四物湯	養血活血・逐瘀		熟地黄 12g・川芎 6g・白芍 12g・当帰 12g・桃仁 6g・紅花 3g 「四物湯 + (桃仁・紅花)」に相当する 水煎し服用する。
	医宗金鑑	主治は、血虚血瘀で、血虚の症候に月経痛、凝血塊あるいは腹腔内腫瘤、腹痛、腹満などの血瘀の症状を伴 うもの。 四物湯に、逐瘀行血の桃仁、紅花を加えている。	